

[科目区分]: 大学院: 専攻共通基礎科目

[授業科目名]: 教員の成長と職業倫理

[登録学生数]: 30

令和4年度 授業評価・授業研究報告

教育学研究科 佐藤 栄治

1 授業の概要

教職経験のある3名の教員のオムニバス形式の実践的な内容を重視した講義である。主に、教員の成長と求められる教師力という点に重点を置いている。私は、そのうち高等学校の教員の成長というテーマで5時間分の講義を担当した。担当した講義は現役の教員とストレートマスターが必ず入るようにグループを構成して、話し合い活動と意見共有を繰り返しながら実感的な理解を狙った講義とした。

私が担当した内容は次のとおりである。

(1) ある高校教師のライフストーリー

高校教師に求められる役割を義務教育段階のものと比較において理解した上で、校内組織とPTA、高教研・高体連・高文連・高野連と呼ばれる外部組織の位置づけと高校教育との関係について具体的に説明し、高校教育においてこれらの外部組織がどのような役割を果たしているのかについて理解を深めた。その上で、愛媛県の教員のキャリアステージを示したうえで、教員は年齢とともに教科指導力、生徒指導力と共に、地域との連携や外部組織との連携、後輩教員の養成など求められる役割が次々に変化することが求められることを伝えた。その上で、教員としてのライフステージを意識させ、生徒の自立のためには開かれた学校、組織作りが重要であることをグループ協議と意見共有を行いつつ実感的に理解してもらうことをねらった。

(2) アクティブラーニングとしてのディベート

アクティブラーニングとしてディベートを取り行ける手法とねらい、一般的な討議との違いについて触れた。現職教員でもディベートの授業に取り組んだことのない教員も少なくなく、ディベートの良さや狙いを理解しながら実践力を付けても

らうことを狙った。シンキングツールとしてリンクマップを用いて意見をまとめる実践的練習とフローシートの作成方法にも触れた。

(3) 教育問題をクリティカルに議論する1

クリティカルシンキング、ロジカルシンキングの目的と使い分けについて理解を深めた後、授業でも比較的手軽にできる即興ディベートを体験させた。

(4) 教育問題をクリティカルに議論する2

教育問題についてクリティカルな議論を展開する意味を考えてもらった。教育問題の解決の糸口を探す手法として、クリティカルな発想を用いるとどのような可能性が開けてくるのかについて、いくつかの例をあげて話し合った。

(5) まとめ

教員の成長は授業ができるようになるだけで留まってはならず、開かれた学校にしていく力を身に付けていかねばならないこと、教員の仕事は新規採用教員もベテラン教員も同じように見える部分もあるが組織の中で求められている役割は変化していることを踏まえ、日々成長することを意識することを確認した。また、私自身が経験した学校の災害復興の経験から、予期せぬ事態が生じた時は地域との連携が重要であることを強調した上で、何を優先し、何をしなくてはならないか考えてもらった。この講義では、ジグソー法を取り入れて実施して、多様な意見が共有できる工夫を行った。

2 授業評価とねらい

5回の講義において、毎時間達成目標を明示して、前時の振り返りとつながりを意識させて講義を行うことを心掛けた。また、現役の教員とストレートマスターと一緒に学ぶ教職大学院という環境

を生かして、教職経験が豊富な大学院生と実習と非常勤講師程度しか経験のない教員が同じグループで討議する機会をなるべく多く設けた。このことは、多くの受講者に好評であったが、一部の受講者から現役の教員の話聞く機会が多く、なかなか意見を出せなかったという意見もあった。最後の場面で、ジグソー法を取り入れたが、多くの受講者に好評であった。

講義全体で、クリティカルシンキング、ロジカルシンキング、ラテラルシンキングといういくつかの考え方を意識して、授業や学校運営において固定的な考え方にならないようにするためには何を意識すればよいかを考えさせたかった。

それぞれの講義の達成目標は次のとおりである。

(1) ある高校教師のライフストーリー

教員の経験や能力に応じた役割とは何か考える。

(2) アクティブラーニングとしてのディベート

- ・アクティブラーニングとディベートについて説明できる（知識）
- ・教室ディベートとして、児童生徒の発達段階に応じた論題を作ることが可能となる。（技能）
- ・ディベートの考え方を授業で活用できる場面を想定できる。（態度）

(3) 教育問題をクリティカルに議論する 1

- ・教室ディベートとして、児童生徒の発達段階に応じた論題を判断できるようになる。（知識）
- ・ディベートの考え方を授業で活用できる場面を想定して授業が組み立てられる。（態度）
- ・クリティカルシンキングとは何か。その効果を体験的に語るができる。（態度）

(4) 教育問題をクリティカルに議論する 2

- ・クリティカルシンキングの思考方法を説明できる。（知識）
- ・クリティカルシンキングを意図的に使うことができる。（技能・態度）

(5) まとめ

- ・学んだ思考方法を使って、想定しない事態が生じ、どんな対策を行えばよいか考える。（技能・態度）

3 受講者の感想

主な感想を記載する。

- ・ジグソー法で、他のグループとの意見や情報が共有できたのがよかった。
- ・現役の教員として自分の意見を述べるが多くおこがましく思えたこともあった。
- ・防災の話は実体験に基づいてよかった。もう少し詳しい話を聞きたかった。
- ・ディベートの経験がほとんどなかったので、とても楽しかった。
- ・ストレートマスターと現役教員の交流は刺激が多く、頭をフル回転しながら受講できた。
- ・多くの意見を肯定的に捉えて、経験を踏まえて話してもらったことが良かった。
- ・クリティカルシンキングは小学校で扱う内容でタイムリーだった。
- ・異校種の交流で学ぶことが多かった。
- ・ライフステージの話は多くの講義で聞いている話でもっとディベートや思考方法について時間をかけて学びたかった。
- ・グループワークが多かったことで他者の考えを知ることができよかった。

4 まとめと今後の改善点

講義の中で異校種・現役教員・ストレートマスターが混在する班構成で、多様な意見に触れながら議論したことで学びが深まった受講者が多く、講座としては概ね狙いを達成できた。しかし、現役教員の意見を聞くことが多く意見が言いづらかったという感想から、グループ学習の難しさも感じた。

ディベート体験がない受講者が予想以上に多く、多くの受講者は「楽しく学べた。もっと経験したかった。」と感じていたが、ディベートを普段から活用している教員から、もっと深めたかったという感想もあった。ディベートのテーマを改善し、全員が学びを実感できる講義を目指したい。

防災の話はほぼ全員の受講者がもっと話を聞きたかったとの感想を述べており、教員が予期せぬ事態に陥った時の対応の実例としての教材化を図りたいと感じている。